

ふくし TIME'S

<http://www.knsyk.jp>

福祉タイムズ



ともしび運動

10

2008 No. 683



〈写真・菊地信夫〉

紙芝居の感動をみんなに

「はっけよーい、のこった!のこった!」。川崎市の等々力緑地公園に、“紙芝居師”加藤雄大(ゆうだい)(37歳)さんと、子どもたちの元気な声が響く。

幼稚園の教諭をしていた7年前に、意気揚々と“公園デビュー”したものの、幼児以外は誰も聞いてくれず悩んだ加藤さん。しかし、1年後の「師匠」と呼ぶ大阪の紙芝居師との出会いから、“読み聞かせ”から“演じる”方向にシフト。「観客からの野次に応じてセリフを変えたり、ページごと入れ替えたり、その場で見ている方と世界を共有できるのが街頭紙芝居」と語る。

現在は、毎週第4日曜日14時からの等々力緑地公園のほか、児童館や小学校、高齢者施設等にも、何度も招かれて実演している。“子どもだけのもの”ではないその魅力を広く伝えたいという。等々力緑地公園ではたくさんの常連もでき、「その中には私のように紙芝居師として公園デビューした方もいるんですよ」とうれしそうに話す。

大人から子どもまで目を輝かせながら感動を共有する時間は、加藤さんにとって至福のひとつだ。

◆ホームページ <http://kamisibai.at.infoseek.co.jp/>

CONTENTS

特集

ともしび助成金の活用状況 2

NEWS&TOPICS

ひきこもりの若者就労支援ネットワーク
フォーラム 4

福祉施設のしごと 5

でかけてみませんか 6

連載

障害者が安心して暮らせるために-第7回- ... 8

県社協のひろば

障害福祉ボランティアリーダー研修 ... 10

かながわHOT情報

しゃぼん玉テレフォン(横浜市) 12



「ともに生きる」社会の実現に向けて

ともしび運動の輪は寄附者の皆様に支えられ32年

～地域福祉(ともしび)推進助成金を活用し、
地域に新しいネットワークが生まれる！～

特集

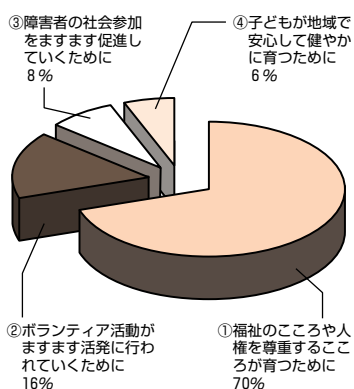
ともしび運動を支えている「ともしび基金」は、昭和五十二年に誕生して以来、県民皆様の理解と協力により大きく育てられてきました。この基金果実を活用し、当事者・ボランティア等の活動の支援に広く活用されている地域福祉(ともしび)推進助成金の活用状況についてご報告します。

ともしび運動の輪は、寄付者の皆様に支えられ三十二年

障害のある人もない人も、子どもも高齢者も、国籍が違ってても「ともに生きる」社会の実現にむけて、神奈川で生まれた草の根・実践活動のともしび運動は、世代を越え、その理念が継承されています。

この運動を支えている「ともしび基金」は昭和五十二年に誕生して以来、県民皆様の理解と協力により大きく育てられ、二十二億三千九百九十三万三千三百三十円(平

基金果実の主な使い途
(19年度の実績)



成二十年三月末日現在)となりました。

その果実(利子)は、障害者の自立と社会参加にむけた事業や思いやりの「こころ」を広げていく活動への支援、子どもが地域で安心して健やかに育つための活動や当事者・ボランティア等の活動の支援に広く活用されています。

ともに生きる社会の実現にむけ奮闘する親と先生たち

逗子食物アレルギー親の会「Yummy(ヤミー)」(逗子市)は、食物アレルギーへの理解を深め、アレルギー児の親同士が気軽に相談や情報交換ができる場を地域につくることを目的に平成十六年に発足したグループです。教育委員会や医療機関と連携してアレルギー対応給食の実施、学校活動での対応など、アレルギー児の日々の支援について取り組んでいます。



市と共催で実施した講演会には多くの市民が参加しました

ともしび助成金を受け実施した「食物アレルギー講演会」には、保護者・学校関係者・市民など約百人が参加。専門医による学校や日常生活での環境づくりと留意点などの講演と質疑が行われ、それぞれの立場での役割などが確認できたそうです。「関係機関と共に歩んできた当事者活動は、誰もがすごしやすい社会につながる取り組みを考えるきっかけになっています」(メンバーの堀江さん)。

また、アトピーや離乳食などで困っている母親たちとの座談会



チラシは、市役所や関係機関窓口で配布されています
相談電話046-235-7353

「ベビー&キッズ」なども開催するなど、そのネットワークが市民レベルで地域で広がっています。

助成金を活用し、地域で新たなネットワークが広がる

女性のためのボランティア電話相談を行う、海老名女性支援電話「そよ風」(海老名市)は、DV(ドメスティックバイオレンス)や子育てがうまくいかないなど、ひとりで悩み、不安を抱える女性のための電話相談をボランティアで行うグループで、平成十九年に活動を始めました。毎週水曜日午後四〜八時の四時間、二人の相談員が無料相談を行っています。「当初は、活動がなかなか認知されずに相談も少なかったが、各方面への広報活動や助成金を受けたこと、さらに傾聴と匿名性という基本姿

勢から活動に対する信用が高まり、市や社協、保健所、女性センターなどの関係機関とも連携がとれるようになってきた」(代表の高林さん)。

「受ける相談一つひとつが個性に富んでおり我々にとっても日々勉強」であり、深刻化するDV相談では、相談者が抱える悩みを受けとめ、行政や専門の機関・グループにつないでいくなど、相談者を支援するネットワークが着実に広がっています。

・**ともしび助成金がグループ・活動と地域をエンパワメント!**

このともしび助成金により、社会の課題に広く市民が積極的に問題意識を持つて参加する「ともに生きる」社会を実現するネットワークづくりへとつながっています。

平成十九年度本助成金を活用した団体(四十三事業・団体のうち三十八団体から回答)にアンケート調査を行った結果、本助成金を活用して、「グループのチームワークが向上し、事業遂行力が向上した」、「社会的な信頼度が向上した」、「事業サイクル(企画・実施

・評価)が確立できた」、「活動に対する認知度が向上した」、「メンバーが増員した」や、「行政や関係機関との連携が活動の中で具体的にになった」、「地域での同じ思いを共有する他のグループとのネットワークが形成できた」などの効果が報告されています。

◇ ◇ ◇

ともしび助成金では、今後も、ひきつづきこうした地域で生まれた草の根・実践活動を広く支援し、ともしび運動の輪を広げていきます。ぜひお気軽にご相談ください。

(ともしび運動推進担当)

平成20年度助成状況(上期:4月~8月まで)

先駆的・モデル的な活動: 宮前平駅前スペースここわ会、海老名女性支援電話「そよ風」、サイレント・サポート、ことぶき学童保育運営委員会

当事者活動: 音楽クラブドレミの会、湘南親子訓練会、育児サークル「にっこにこ」、みうらスプラッシューズ、つくいツースリー、海老名市手をつなぐ育成会、「声を楽しむ」声が不自由な方のための音楽教室、横浜市立ろう特別支援学校の保護者等による手話勉強会、青い鳥の会、サイコドラマ諏訪坂、県立高津養護学校PTA、逗子食物アレルギー親の会「Yummy」、スキップ、小鳥の会、全国心臓病の子どもを守る会神奈川県域支部、みどり養護学校PTA自主サークルふれんず、スペース杉田、さつき会、CS和の会

広域的活動: ユッカの会、県精神保健ボランティア連絡協議会、あーすフェスタかながわ2008実行委員会、ワンダートンネル、ゆーぼ、フレンド・ワン、英会話クラス「フルピア」を支える会、県ボランティア連絡協議会、県障害者スポーツ振興協議会、横浜子育て支援グループぼっけ、リーディングサービスよこはま会、横浜乳幼児相談ボランティアグループ、THEすかっこ「ソーラン」、TIEトマトマの会、かたつむり会シニアーズクラブ、ART LAB OVA、湘南地区生涯学習インストラクターの会、介護の会まつなみ、どんぐり、日本語の会21、おせつ会、県手話サークル連絡協議会、ワーカーズコレクティブコミュニティコーディネーターここ

地域福祉(ともしび) 推進助成金 申請受付中!

15万円以下

12月末までの毎月(随時申請受付)

16万円以上(限度額あり)

10月末まで

本会ともしび運動推進担当

☎045-312-1121(内線3201)まで、お気軽にご相談ください!

地域での「起業」から、ひきこもりの若者の社会参加を考えよう

去る九月十九日、かながわ県民センターにて、NPO法人アンガージュマン・よこすか（以下「アンガージュマン」）と県（産業活性化課、青少年課、商業観光流通課、雇用産業人材課）主催で、第五回就労支援ネットワークフォーラム「ひきこもりの若者 起業に挑戦なぜ働くの？ 自分らしく働く」が開催されました。

はじめにアンガージュマン理事長の滝田衛さんから、ひきこもりの若者の自分らしい生き方・働き方を「起業」という視点から考えたいとの挨拶があり、第一部の講演では、事務局長の島田徳隆さんから、県・市の助成金を活用して横須賀市上町商店街の空き店舗に立ち上げた就労支援店舗「はるかぜ書店」など、団体の活動紹介がありました。商店街にはイベントの手伝いや配達サービスなど働く場を提供してもらっており、互いに頼りにしあう関係が、ひきこもりの若者に良い刺激となるのでは



と提起されました。

第二部は、長谷川俊雄さん（愛知県立大学准教授）をコーディネーターに、大居ゆう子さん（県産業活性化課）、為崎緑

さん（中小企業診断士）、ひきこもりの若者の自立支援に携わる福守弘文さん（CLCA若者自立塾塾長）、これから上町商店街で起業予定の大湊雄治さん、島田さんによるパネル討論が行われ、「書店では販売士の資格取得を応援したが、こうした履歴書の空白を埋めるような自信をつける支援が必要」「商店街等受け入れ側には、事業目的への理解とゆっくり見守る懐の大きさが求められる」などの意見が交わされました。

終わりに、小林正稔さん（県立保健福祉大学准教授）が、「社会として起業に成果を求めるのではなく、書店と商店街の関係のように、困ったことを助け合う仲間として受け入れよう」と、地域の姿勢について呼びかけ、幕を閉じました。（企画調整・情報提供担当）

県へ障害福祉施策に関する要望書を提出

本県における障害福祉行政施策の特徴の一つに、全国に先駆けて民間社会福祉施設運営費補助を導入し、重度障害者の受け入れや多様な支援形態、利用者の人権への配慮や人間性に尊重した支援などの提供に取り組んできたことがあります。

しかし、平成十八年四月の障害者自立支援法の施行により、県所管の障害福祉施設に対する運営費補助の段階的な見直しが展開されており、政令指定都市や中核市における独自の補助制度に対し、県が進めている見直しにおいては、補助の削減により職員数の現状の維持が厳しくなるなど、施設サービスを提供する体制にも影響が及んでいます。さらに平成二十一年度には、障害程度区分認定調査などによる新たな見直しが示唆されていることもあり、現状サービスの水準の低下が懸念されています。このような状況から、県内のこの施設でも、障害福祉施設のサ

ービスを安心して利用でき、またその地域格差を生み出さないためにも県域の役割を果たしていただきたいと、本会と県知的障害福祉協会（会長 安藤浩己）、県身体障害施設協会（会長 田中誠二）、県民間知的障害施設協同会（会長 大久保一雄）の四団体連名で、障害者自立支援法に伴う障害福祉施策に対する改善等を、県知事あてに提出しました。

（社会福祉施設・団体担当）

要 望 書

（一部抜粋）

1. 民間社会福祉施設運営費補助制度見直し時期について
今後の施設運営やサービス提供体制の見通しがつくまではこれ以上の運営費補助の削減を行わないでいただきたい。
2. 地域格差の解消について
居住地によって施設サービスの内容に格差が生じないように県が主導的な役割を果たしていただきたい。



福祉医療病院 「汐田診療所」 医療ソーシャルワーカー



松井 由美子

汐田病院（現 汐田総合病院）に医療ソーシャルワーカーとして就職して以来、三十年が経過しています（現在は汐田診療所勤務）。当時は百床（現在は二百四十三床）規模の病院であるにもかかわらず、ソーシャルワーカーの定員は四名でした。下請け労働者が多く、低所得、老人、障害者が多いという土地柄、「いつでも、誰でも、どこでも、安心してかかれる、親切でよい医療を」をスローガンとして掲げる民主医療機関連合会に加盟する病院として、相談活動には特に力を入れてきました。

福祉医療の世界に飛び込んで

そんなところに、社会福祉の勉強はしたとはいえ、具体的には健

康保険のいろはも知らず、学校を卒業後すぐに結婚、社会生活の経験もない私が、飛び込んだのです。先輩の指導の下、時間をかけ、マイペースながらも深く人と関わる中で数多くのものを学んできました。酔っ払いで手に負えないと思っていたアルコール依存症患者の方や、ホームレスの方も、不幸な生い立ちや機会に恵まれなかった理由によるもので、根は善人であることがわかったのです。彼らの住む街では、米、味噌、醤油を貸し借りするような近所付き合いがあったり、当然のように隣のお年寄りの面倒を見ていたり、ごくばらんで温かな人間関係がありました。

いっしょに乗り越える喜び

百人百様、患者さんにはいろいろな人生のドラマがあります。右往左往しながら、人生の大先輩である患者さん達から生き方を学び、専門機関からも助けてもらいながら、経験則的にやってきたというのが実情です。長い相談活動の中で、初対面で



は相談者と援助者として、なんとなく壁を作りがちだった関係が、一緒に

に悩み、泣き、笑い、問題を共有するうちに「同志」のようになります。お互いに信頼関係を築くことによって、いい解決の方向に向かうことができます。それこそ、ソーシャルワーカーの醍醐味ではないでしょうか。

一生懸命に生きている人の生活が成り立つ社会であってほしいと切に思います。退職まであと数年を残すのみとなりましたが「Do my best」のみです。

■汐田診療所
横浜市鶴見区下野谷4-1138
Tel.045-521-5147

福祉医療病院とは
生活困窮者のために無料、または低額料金で診療を行う施設。
県内には二十八箇所。

第三者の眼で評価します

- ★福祉サービス第三者評価
高齢・障害・保育・児童・保護分野
- ★地域密着型サービス外部評価
- ★横浜市指定管理者第三者評価



※ 評価の日程等ご相談に応じます

福祉サービス第三者評価機関しょうなん
株式会社 フィールズ
〒251-0024
藤沢市鵜沼橋1-2-4クゲマファースト3F
Tel: 0466-29-9430 Fax: 0466-29-2323
E-mail: hyouka@s-pado.co.jp

NEO!
Communication
PORTSIDE

株式会社ポートサイド印刷

〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町16-2

Tel.045-776-2671(代)

Fax.045-776-2678

<http://www.portside.co.jp>



A4フルカラー2.5円 毎分
120枚の高速フルカラー
プリンター

理想科学 オルフィスHC5500

※yahooで「株式会社八雲堂」と検索してください

理想科学神奈川県正規代理店

株式会社八雲堂

〒235-0045

横浜市磯子区洋光台6-20-6

TEL 045-833-5172 FAX 045-833-5149

小田原市／鴨宮ひかりスタンプシール会 子育て支援エンジェルカード

今回ご紹介するのは、JR東海道本線鴨宮駅の商店街で発足4周年を迎えた「鴨宮ひかりスタンプシール会」。こちらでは昨年7月から、0～15歳の子どもをもつ保護者を対象に「子育て支援エンジェルカード」を発行しています。お得に買い物を楽しめ、イベントにも大活躍のカードです。

子育て中の家庭にやさしいカード

鴨宮駅周辺は、昭和39年10月に東海道新幹線が開業するのに先立って、試験運転を行うモデル線が開通された「新幹線発祥の地」です。鴨宮ひかりスタンプシール会の名前は、それに由来しており、現在も鴨宮の街では東海道新幹線が走り抜けていく姿を見ることができます。

子育て中の家庭を商店街が応援する子育て支援エンジェルカードは、鴨宮ひかりスタンプシール会の加盟店で申し込むと、0～15歳の子どもの保護者なら、だれにでも発行されます。

現在、加盟店は約40店舗あり、それらの店で買い物を際にカードを提示すれば、お買い上げ100円につきオレンジシールを1枚もらえ、シール350枚分の台紙1冊で600円の買い物ができます。毎月0のつく日（10、20、30日）はシールを2倍もらえ、賢く利用すればするほど、買い物がお得になり、家計を助けてくれます。



新幹線発祥の地 鴨宮
ひかりスタンプ
加盟店
お買い物は、ひかりスタンプ加盟店で!!
<http://kamonomiya.net>
子育て支援
エンジェルカード
加盟店の店頭にはエンジェルカードのステッカーが貼ってあります

親子で抽選会に参加しよう！

鴨宮駅の北口と南口に並ぶ加盟店は、青果、鮮魚、精肉、日用雑貨、薬・化粧品、衣料品、生花、洋菓子など、さまざまな業種にわたり、日々の買い物で必要な物はひととおり揃います。「小田原のかまぼこ」と看板に掲げる店もあり、地元商店街のあたたかみを感じられます。

エンジェルカードは商店街で年5回行われる

今月は ⇒ NPO法人

ままとんきっず がお伝えします！

1993年、子育て中のおかあさんが集まり、子育てタウン情報誌「ままとんきっず」を発行。以後、子育てに関するメール相談、地域の親子が集うサロン運営、各種講座の開催など、子育て支援活動を展開。2006年「第19回神奈川県地域社会事業賞」を受賞。情報誌・単行本の発行物は30冊を数え、一部は海外でも翻訳出版。最新刊は「ままとんきっず16号 幼稚園・保育園特集2007～08年度版」。
<連絡先> 川崎市多摩区菅田堤 3-5-43
TEL / FAX : 044-945-8662

イベントでも使えます。夏・冬2回の「福引き抽選会」では台紙1冊で抽選が2回でき、豪華な賞品やオレンジシールが抽選で当



エンジェル抽選会はハズレなし。はりきっていきましょう！

たるほか、子どもたちが輪投げや釣りゲームなどに挑戦する「エンジェル抽選会」も行われ、子どもたちはおもちゃやお菓子を当てて、大喜びです。加盟店での買い物で集めるポイントによってシールがもらえる「スタンプラリー」、台紙1冊で700円の買い物ができる「得々セール」といったイベントも開催され、カードを持っていれば楽しく参加できます。

絶景ポイントでサイクリング

鴨宮駅から徒歩15分の酒匂川に架かる小田原大橋付近の河原は、東海道新幹線と富士山を眺められる絶景ポイントです。「酒匂川左岸サイクリング場」もあり、自転車を無料で貸し出しています。子ども用や変わり種自転車なども揃っているため、秋のさわやかな青空のもと、親子でサイクリングを楽しむのもよいですね。

インフォメーション

鴨宮ひかりスタンプシール会

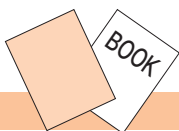
電話 0465-47-2744 (ファッション エス・ユー)

ホームページ <http://kamonomiya.net>

酒匂川左岸サイクリング場

自転車貸出期間は、平日13:00～16:30（3～10月）、13:00～16:00（11月）、土日曜・祝日10:00～16:30（3～10月）、10:00～16:00（11～2月）※12～2月の平日、雨天時は休み

◆子育て中の方や障害のある方にやさしい工夫をしている商店街の情報を募集します！ご意見・ご感想は kikaku@knsyk.jpまでお寄せください。



今月の福祉資料室

BOOK

「福祉資料室」をご利用下さい！

◆利用時間：月～金（第3金曜日、祝日、年末年始等を除く）の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865

図

書



私のおすすめの1冊

「地下鉄」

ジミー（幾米）／作・絵
宝迫典子／訳

NPO法人ままとん
きっず 理事
詩人 鍋木恵子

とにかく美しい絵本です。ステンドグラスやモザイクアートを彷彿とさせる色彩豊かな絵と、詩や箴言（しんげん）のように奥行きのある文章。目の不自由な女の子が入り込んだ地下鉄は、本来、闇の所であるにもかかわらず、夢のように明るいのです。

作者には白血病の闘病体験があり、死と向き合ったからこそ、悲しいほどに澄んだ心の色調で、世界を眺めることができるのかもしれない。地下から地上へ、内から外へ、そして今日から明日へ、女の子が1歩を踏み出していく姿に誰もが勇気を与えられることでしょう。

生きることになった時、何度でも手にとってみたい本です。



2002年10月刊
定価1365円（税込）
小学館

★福祉事業の成否を決める福祉職採用のノウハウ（小室豊允・高橋勝彦著、筒井書房）
★ちゃんと人につきあいたい！発達障害や人間関係に悩む人のためのソーシャルスキル・トレーニング（井澤信三・霜田浩信・小島道生・細川あり・橋本創一編、エンパワメント研究所）
★介護管理者養成研修テキストあなたが育てる人材マネジメント「職場研修用」（林義智・高野暢彦監修、奥田三子著、第一法規）
★保育における食育活動の道しるべ（計画・評価の工夫と実際（高橋美保著、トル出版部）
★団地と孤独死（中沢卓実・淑徳大学孤独死研究会共編、中央法規）

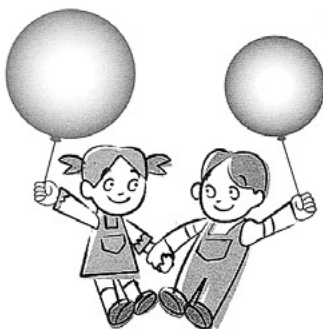
資料

★基礎から学ぶ介護シリーズQ&Aで学ぶ高齢者の性とその対応（荒木乳根子著、中央法規）
★障害をもつ子が育つということ（10家族の体験（野辺明子・加部一彦・横尾京子・藤井和子編、中央法規）
★横須賀市児童相談所事業概要平成20年度版（横須賀市児童相談所）
★麦わらぼうし92号（あおぞら保育園・あおぞら第2保育園・谷津保育園）
★平成20年版介護労働の現状Ⅰ・Ⅱ（財団法人介護労働安定センタ）

安心を支えます

ボランティア活動保険

ボランティア活動中のケガや賠償事故を補償



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症（日射病・熱射病）による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震等天災によるケガも補償（天災タイプ加入の場合）

保険料（掛金） Aプラン...260円 Bプラン...420円 Cプラン...590円
天災危険補償タイプもあります。

ボランティア行事用保険

地域福祉活動の一環として行うボランティアに関する行事におけるケガや賠償事故を補償！

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャー等の活動中のケガや賠償事故を補償！

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故等によるケガを補償！

お申込み、ご照会は、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

<http://www.fukushihoken.co.jp>

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

親にとつての子どもの自立とは

「親」は、子どもにとって、もっとも身近な存在です。そこで今回は、障害のある子どもを持つ親の視点から、子どもの「自立支援」について考えます。

学齢期から成人期に移る時期の親の悩み
――Iさんの事例から

『泉の会』は、神奈川LD児・者親の会「にじの会」を母体し、発達障害や高次脳機能障害、軽度の知的障害などがある二十代から四十代の成人期の子どもの持つ親が集まって設立されました。月に一度の定例会のほか、グループホームの見学会や本人たちの余暇活動の支援を行っており、設立から十一年、県内全域の二十五名の会員により組織されています。

メンバーのIさんは、軽度の知的障害で強迫神経症のある三十代の娘さんを持ち、会に参加して数年になります。会に参加する以前は、Iさんもご主人も娘さんに障

害があるとは思っていません、娘さんの生活に対して「転ばぬ先の杖」だと思って、何でも親が口を出したり手を出したりしていた「そうです。娘さんはIさんに勉強を手伝ってもらいながら何とか普通高校と専門学校を卒業しましたが、就職はできず、親の指示が無いと何もできないという状態の中で精神疾患にもかかってしまったことから、Iさんは「これではいけない」と感じました。

そこで、Iさんは精神保健福祉センターに相談し、精神疾患の子どもを持つ親の会に参加しました。しかし、他の子とのIQの差などから「娘は精神疾患だけではないのでは」と感じ、手をつなぐ育成会に相談したところ、泉の会

を紹介されました。参加してすぐには自分の気持ちを話せなかったのですが、回を重ね、他の親の話聞く中で少しずつ話せるようになり、「娘の障害を認めたくない」という思いで悩んでいたIさんも「娘も障害者手帳を取って生活したほうが生きやすいのかもしれない」と考えるに至ります。

その後、「親亡き後、娘が困らないように、私が生きている間に「自立」に向けていろいろやらせておきたい」と思い、娘さんは家を出て短期間型のグループホームを利用するようになりました。

「以前、娘が家に帰ってきた時に、洋服に自分で縫った刺繍を返し、＼できることが増えたんだなあ」と、とてもうれしかった。娘が実はおしゃべりなんだと気づけたのも会に入ってからでした」と、顔をほころばせます。

「当初、主人は娘が家を出て生活することに否定的でしたが、グループホームの生活を通じて娘のできることが増えていくのを見て、以前よりも少しずつ理解を示してくれているような気がしま

す。これまでは何でも親が先回りしてやっていましたが、今は一歩下がって何かあったら守る、最後の砦だと思いながら見守っています」とのことです。

子どもの生き方・自分の生き方
を見つめる
――当事者活動の中で

泉の会の事務局長をつとめる心理相談員の森佐登子さんは、「親の会では子どもについての悩みが中心になりますが、親御さん自身が支援を必要としていることも少なくありません」といいます。

Iさんのように「障害のある子に産んでしまつて申し訳ない」という罪悪感から心配しすぎて子どもと距離がうまく取れない方や、「子どものため」と思いながら「自分のため」に行動してしまう方などがいます。そこで会では親として子どもの「自立」へ向けた行動の「後押し」ができるように、会員同士で相談に乗ったり情報提供を行ったりなどの相互活動を行っています。「Iさんのように、話すまでには時間がかかるかもしれませんが、ご自身が悩みを整理

視覚障害の方の
サポートをしています！

神奈川県ライトセ
ンター マラソング
ラブ・八走会
会員 今西 徹
(大和市在住)



私は、3年前から視覚障害の方が出かける際の誘導ボランティア（付き添い）と、そして誘われるままにマラソンの「伴走」（短いロープでつながって一緒に走る）を始めました。走るなんてとんでもなかった私ですが、楽しく伴走を続けられているのは、汗をかく爽快感と、走ったあとの乾いた体に染み込んでいくような水分補給の味が格別だからでしょう！

走ることを続けていて何よりも変わったことがあります。日頃から色々な体調不良が付いて回っていた私でしたが、走り始めてからはずっと風邪ひとつ引かない、頭痛・肩凝りなどとも全く無縁な健康な体になってきたことです。これはきっとスポーツをする元気な人達からパワーを毎回もらえているおかげでしょう、有難いことだと思っています！

伴走…それはご自身の走力にかかわらずできるものですし、「完走の喜び」をランナーの方と共に分かち合って、沢山の感動と楽しさをもらえます。しかも「健康」というオマケもきつと付いてくるのです！

視覚障害があるために外出はできても、走りたい時に一人では走ることが難しい方が大勢おられることを知ってください。…そしてよろしければ、貴方もこんな「伴走のボランティア」を始めてみませんか！

(連絡先: imanishit@jcom.home.ne.jp)

し、気づき、行動できるようになることを目指しています」といいます。

子どもの恋愛のことなど、「親のかかわり方が難しい」悩みもあります。「結婚とまでなると、簡単に後押しはできない。それだったら、結婚はしないで今のままでいてほしい」と思う親も多いそうです。恋愛の他にも、キャッチセールスの被害などに遭ったりすることも多く、やはり親がしっかり見ていないといけないのかと悩む方もいます。

持つ森さんも、子どもとの関係がこのままでいいの不安になるときがあります。

「私も発達障害について書かれた本を読み、子どもとのつきあいは勉強しましたが、かわりすぎないように子どもから歩引いて接していると、借金などいろいろな問題が起きます。でも、こうした子どもとの関係は、普通の家庭と同じなんですよね」。といい、「何かあったときに手を差し伸べたい」と言うIさんと同様、親として適度な距離をとりながら見守りを続けています。

森さんは経験者として、親たちに、一生に一度の人生なんだから、ネガティブではなく前向きに行こうとアドバイスをしていきます。「親が、なるようにしかならない」と前向きな気持ちでいると、子どももプレッシャーが減って楽しくなるんですよ」と笑顔で話し、こうした会の雰囲気にも勇気付けられる親も多いそうです。

子どもが自分で本当に望む生活を送るためには、親自身が、心配しすぎだったり、子どものためではなく自分のために行動してしま

ったりする自分に「気づき」、そして次のステップを踏み出す「勇気」が必要です。

泉の会では、親同士が体験事例を数多く共有し、それぞれが自分の悩みの解決に向けたヒントを得て、Iさんのように子どもに家を出て生活してもらうことを決意するなど次の行動につなげています。

制度・施策の充実や周囲のサポートなど、環境面も重要ではありますが、親の背中を押し、前向きな気持ちを生み出すような「後押し」が求められているのではないのでしょうか。

障害者権利条約の理解と活用 のために「障害福祉ボラン ティアリーダー研修開催

今年五月に発効された「障害者権利条約」。わが国も批准に向けて施策の見直しが迫られています。が、去る九月十三日、「自分らしく輝くための人権を考える」障害者権利条約あなたならどう活かす？活かせる？」をテーマに、かながわ県民センターにて県障害者自立生活支援センターと共催で研修会を開催しました。

はじめに、DPI（障害者インターナショナル）障害者権利擁護センター所長の金政玉きんせい たまさんの講演があり、条約の特徴は「合理的配慮」（障害に伴う不平等や不利を解消するために改善を行うこと）という概念を導入し、それを行わないことを差別と明記したこと。また、障害者の個別的なニーズに社会の側が合わせるという考え方のもと、障害者がどこで誰とどんな生活をするかを「選ぶ」機会があることを保証したことに意義があり、「日本は現在の「隔離的」な



政策から根本的な方向転換が求められている」と提起しました。

パネル討論では、「割引制度など細かい「恵み」ではなく、「権利」としてのしっかりした所得保障制度が必要」という依田雍子よしこさん（県手をつなぐ育成会会長）、

「利用者の意向を無視した支援法の障害区分は無くすべき」という内藤美幸さん（総合福祉サポートセンターはだの相談員）、「施設等ではまだまだ「利用者主体」の生活になっていない。今の日本の障害者支援のあり方を変えていくためにも、条約を正しく理解し、広げていくことが大切」という渋谷治巳さん（横浜市障害者自立支援センター事務局長）らの意見に、大きく頷く参加者も見られました。障害のある方を支えてきた側やサービスを提供する側、当事者側それぞれが立場を超えて考えあい、実情に即した条約の活かし方を整理する機会の必要性が確認された研修となりました。

（企画調整・情報提供担当）

福祉サービス評価事業から

◇福祉サービス第三者評価

本会福祉サービス第三者評価事業では、二回目の受審となる事業所の評価結果を公表しました。

▼社会福祉法人たちばな会 特別養護老人ホーム天王森の郷（所在地：横浜市泉区）

なお、本会福祉サービス第三者評価事業は平成二十年九月末日をもって終了とさせていただきます。これまでの評価結果につきましては、ひきつづき本会ホームページにて公開させていただきます。

◇地域密着型サービス外部評価

本会地域密着型サービス外部評価事業では、本年七月に訪問調査を実施した事業所の評価結果を公表しました。

▼グループホーム麻生（所在地：川崎市麻生区）

本年度外部評価受審事業所を募集しています。お気軽にお問合せください。

☎ 045-311-8746

（企画調整・情報提供担当）

ネットトヨタ神奈川(株)からの 寄附金で車いすを寄贈

ネットトヨタ神奈川(株)から県内福祉施設に車いすを寄贈してほしいと寄附金をお寄せいただきましたが、このたび、配分先が決定し、県内十四ヶ所の特別養護老人ホームに寄贈されました。本会会員の百九十九特別養護老人ホームの約七割にあたる百三十四施設より配分希望が寄せられ、地域毎の施設数により、横浜市域四・川崎市域二・県域八施設を抽選により選定しました。ありがとうございました。

（ともしび運動推進担当）

ネットトヨタ神奈川(株)からの車椅子寄贈施設一覧

NO.	施設名	所在地
1	すすかけの郷	横浜市港南区
2	あだちホーム	横浜市旭区
3	ピオラ三保	横浜市緑区
4	スプリングガーデン瀬谷	横浜市瀬谷区
5	みやうち	川崎市中原区
6	緑陽苑	川崎市麻生区
7	ヒューマン	横須賀市
8	芭蕉苑	藤沢市
9	陽光の園	小田原市
10	逗子清寿苑	逗子市
11	はあとびあ	相模原市
12	泉心荘	伊勢原市
13	サライ	座間市
14	あしがら広域福祉センターひかりの里	大井町

役員会の動き

◇理事会 9月10日(水) ①正会員の入会申込、②平成20年度一般会計補正予算(案)、③県社協会長顕彰者の選考

◇新会員紹介

【経営者部会】(福) 六会・遠藤福祉会、(福) 新生会

【施設部会】山崎保育園、六会保育園、遠藤保育園、さぎ沼なごみ保育園、ひばりつくく保育園、くらき永田保育園、介護老人保健施設さくら、横須賀市立福祉援護センター第2かがみ田苑、特別養護老人ホーム戸部ハマノ愛生園

介護の日制定記念イベント開催

介護についての理解と認識を深めるために制定された介護の日を記念し、各イベントを開催します。

◇主催 県会・県・県介護福祉士会
◇日時 平成20年11月11日(火) 午前10時30分～午後4時

◇対象 県民、社会福祉関係者等

◇会場 県社会福祉会館内ホール他

◇内容 ①介護落語(林家源平さん) ②介護の日制定記念セミナー記念講演(阿部志郎県立保健福祉大学名誉学長) ③就職相談 ④もっと知りたい介護の世界・しごと展 ⑤介護相談 ⑥介護体験コーナー ⑦権利擁護・成年後見相談

◇問合せ かながわ福祉人材センター
☎045-1312-1112(代表)

2008年度社会福祉士実習指導者講習会開催

厚生労働省からの委託を受け、実習指導者の資質向上を目指して実習指導者講習会を開催します。

◇日時 平成21年1月17日(土) 1月18日(日)

◇会場 ウィリントン横浜(京浜急行・市営地下鉄「上大岡駅」直結徒歩1分) ※他、全国16都道府県全18会場でも実施

◇受講資格 社会福祉士であり、現に実習指導者として従事しているか、実習指導者になろうとする方

◇受験料 日本社会福祉士会会員1万円、非会員1万5千円(入会手続き中の場合は会員扱い)

◇受付開始 平成20年11月1日(土) (専用FAX申込書にて受付)

◇問合せ (社) 神奈川県社会福祉士会
☎045-1317-2045
<http://www.kacsw.or.jp>

2009年版社会福祉手帳販売

本会では、ただ今2009年版の社会福祉手帳を予約販売しています。

◇体裁 左右85mm×天地140mm 240頁

◇内容 日記欄、資料欄(社会福祉法、児童虐待の防止等に関する法律、障害者自立支援法、介護保険法等社会福祉関係諸法の要点、高齢者

人口・社会福祉施設数等統計、ボランティア活動保険、福祉サービス総合保障の概要、都道府県・指定都市社会福祉関係部局・社会福祉協議会等の一覧、その他)

◇価格 500円(税込)

◇締切 先着順(なくなり次第終了)

◇問合せ 本会企画調整・情報提供担当 ☎045-1311-1423
<http://www.knsy.kjp/topics/topics170.html>

寄附金品あつがひがじまじまつた

【一般寄附金】▽協隆志

【としび基金】▽(株) FUJI大船店▽(株) FUJI根岸橋店▽神奈川県警本部県民相談室▽神奈川県私学団体連合会▽神奈川県障害者就労相談センター▽セレナ川崎農業協同組合北見方支店▽としびショップ県民センター店▽(有)日栄浴場▽内田輝光▽内田靖雄▽太田雄造▽沖山英子▽小田猛夫▽関野光枝▽高橋輝夫 (計、一〇四、三六八円)

【寄附物品】▽神奈川県定年間問題研究会▽保土ヶ谷県税事務所▽竹沢佐知子 (敬称略)

※本誌9月号に物品寄附者として掲載した「横浜市港南区地域ケアプラザ」は、「横浜市港南台地域ケアプラザ」の誤りでした。関係者の方々にご迷惑をおかけしたことをお詫びし訂正いたします。

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



KKI 印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所
〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1598
<http://www.kki.co.jp/>

神奈川県福祉研究会
(税務・会計の専門家グループ)

理事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)
同 桑江 郁男(☎045-402-4433)
同 辻村 祥造(☎045-311-5162)
同 西迫 一郎(☎046-221-1328)
同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)

代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

一般家庭から大型ビルまで
最新のエレクトロ技術により
安心と安全を提供します。

京浜警備保障株式会社
代表取締役社長 谷 口 嘉 弘

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX (045)441-1527



話してみませんか、赤ちゃんのこと

しゃぼん玉テレフォン(横浜市)

今回は、赤ちゃんを亡くした家族が「安心して泣ける場」として電話相談を行うしゃぼん玉テレフォン代表の河西由貴子さんにお話を伺いました。

一人ひとりに向き合うことから

会を支える仲間は、赤ちゃんを亡くした体験を持つ家族です。こうした悲しみを持つ方たちの話を聴く機会を大切にしようと、電話相談を立ち上げました。

「あまりに儚く逝ってしまった月日は過ぎていくけれど、あなたのことを想わずにはいられない時もあります。そんな時には立ち止まって、電話で赤ちゃんのこと、話してみませんか」と呼びかけています。

最初のうちは、自宅で電話相談を受けており、ゆったりとした気持ちで聴けないときもありました。が、今では、活動時間と場所を自

宅と区別したこと、落ち着いて河西さんたちも話を聴くことができるそうです。「一人ひとりの割り切れない想い、悲しみのわかち合いから生まれる優しさ」を会から生み出せればと河西さんは願います。

兄弟姉妹の気持ちに寄り添って

会では、亡くなった赤ちゃんの兄弟姉妹にも目を向けています。赤ちゃんの「死」を、「自分が悪かったのではないか」「悲しんでいる親にどのようなに甘えたらいいか」と受



赤ちゃんだった兄が亡くなり悲しんでいる家族にまめ太が生まれ、兄の死とまめ太が自分の誕生について考え成長するお話

け止めている兄弟姉妹の中にはいます。そこで、亡くなった赤ちゃんの兄弟姉妹向けに紙芝居『まめ太の家族』を会で作り、親としての語りかけの手だてとしています。

小さい命だからこそ

電話口では、赤ちゃんを亡くした家族に、「時間が解決するから」「次があるから、頑張れ」など、周囲からかけられた励ましの言葉に戸惑う様子が感じられるそうです。

「赤ちゃんを亡くした家族に言葉をかけられなくても、あなたのことが心配だという気持ちがあれば、いつか伝わる。『小さい命だからこそ』その命をみんなが認めてくれれば…」と河西さんは優しい声で語ってくれました。

(かながわボランティアセンター)

しゃぼん玉テレフォン

<http://home.catv.ne.jp/kk/masaya/syabon/>

活動日時 第1水曜日、第3日曜日
午後1時半から4時

活動場所 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-12

かながわ県民センター15階
セルフヘルプ相談室

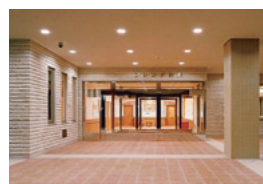
一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL 03(3449) 1771 / FAX 03(3449) 1772
URL: www.yasue-sekkei.co.jp
E-mail: yasue@yasue-sekkei.co.jp



特別養護老人ホーム(川崎市)



新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・アスベスト調査等お気軽にご相談ください